

2018年11月4日

瀬尾さんのお友達戸塚第三小子どもたち 180 人の手紙から

～10月23日いのちの授業～

新宿戸塚第三小全校生徒 180 人の瀬尾さんへのお手紙から、要約・編集させていただきました。

文責：損保OB阪神語り部 児島 正

1. 一年生

(1) 女子A

- ◆いのちのことを教えてくれてありがとう。
- ◆一番大事なことは、自分のいのちは自分で守ることだと知る。

(2) 女子B

- ◆地震や事故でも生きて凄いと思う。
- ◆私も勇気をもって生きたい。

(3) 女子C

- ◆自分のいのちは自分で守る。
- ◆一人では生きていけない。
- ◆人を傷つけるな。
- ◆これからもいのちのことを考えながら生きて行く。

(4) 男子D

- ◆すごい話をありがとう。
- ◆自分を守る。
- ◆一人で生きる。
- ◆人を傷つけない。
- ◆人を守り、自分たちを守ってくれてありがとう。

(5) 男子E

- ◆僕もいじめられたことがある。
- ◆いじめはやめてほしい。

2. 二年生

(1) 女子A

- ◆いままでどんなに大変だったかは、立場にならないとわからない。
- ◆本だけではわからないことを話していただき感謝している。
- ◆生まれる前の東日本大震災の時のことも教えてくれてありがとう。
- ◆人生には、楽しいことも、大変なこともある。まだまだ大変なこともあるかもしれ

ない。これからも頑張ってください。

(2) 女子B

◆いのちの大切さ、人を傷つけること、自分から死んだらダメなこと、を教えてくれた。

◆いじめられても、我慢できるのがすごいと思う。

(3) 男子C

◆戦争・地震・がんと今日まで生きてすごい。

◆戦争はいやだと思う。

(4) 女子D

◆戦争のこと、地震のこと、病気のこと、全部いい話でした。

◆瀬尾さんのお父さんが飛行機の爆弾から瀬尾さんを守るために自転車で田舎へ疎開させた。優しい親と思う。80キロも、自転車で運んだのはすごい。

(5) 男子生徒E

◆いのちがどんなに大切かわかった。

◆長い時間立ってお話するとは思ってもいなかった。

◆ガンを頑張って話してくれて感謝している。

◆私はいのちを大切に生きたい。

3. 3年生

(1) 男子A

◆いのちはたった一つであり、いつか死ぬという寿命があることは知っていた。

◆瀬尾さんほど大切なものとは思っていなかった。詳しく教えてくれてありがとう。

(2) 女子B

◆おじいちゃんがガンで入院したのでガンの話が一番こころに残った。

◆ガンにならないように気を付けたい。

◆二番目は、戦争で両親の大切さを知った。

◆おかあさんは、自分を生んだり、勉強を教えたり、自分たちのためにしてくれているいいおかあさんだ。

(3) 男子C

◆毎日いやなことがあり、たまに死のうかと考えていたが、瀬尾さんの話を聞いてやめようかと思う。

◆学校、学童でも嫌なことがたくさんあって不幸と思っていたが、それでも幸せな方ということが分かった。

(4) 女子D

◆怖いことを乗り越えてきのはすごい。

◆のどがガンなのに一生懸命しゃべってくれた気持ちはすごくわかった。

◆友達がいることは本当に幸せですね。

(5) 男子E

◆生まれる前に戦争や大きな地震があったことは知らなかった。

◆戦争中を生き延びのたんですね。すごいですね。

- ◆瀬尾さんみたいに強く生きたい。
- ◆一人でも生きられると思っていたが、一人だと生きられないことを知った。
- ◆一日が大切なことを知った。

4. 4年生

(1) 男子A

- ◆生きる事と死ぬ事がよくわかりました。
- ◆人を殺さない、傷つけない、自殺をしないことが大切。
- ◆瀬尾さんの話で、もう一人の私が生まれ変わりました。
- ◆つらいことが起きても、家族・友人をいつまでも大事にする。

(2) 女子B

- ◆毎日が感謝できていなかった。瀬尾さんのお蔭で、幸せを感じた。
- ◆今の自分を感謝すべきでした。
- ◆友人と家族と隣にいる人を大事にすべきでした。

(3) 女子C

- ◆一番心に残るのは、すべて全力でやること。
- ◆私はあきらめる時があります。そんなときには、思い出して頑張る。
- ◆家族・友人など大切に生きていく。

(4) 男子D

- ◆一人では生きていけないことを学びました。
- ◆この前まで入院。今は友達の遊んでいるのを見ている。
- ◆良くなったら、友達と一杯遊び、親とも頑張っていきたい。

(5) 女子E

- ◆友人とはたまに喧嘩をしている。
- ◆喧嘩なんてしてはいけないと思う。
- ◆生きている時間は限られているので、そんなへんなことはやめる。
- ◆家族は私のことを一番わかってくれる存在。今の自分に感謝している。
- ◆疎開した時周りに誰もいなかった。瀬尾さんの気持ちが少しわかる。

5. 5年生

(1) 女子A

- ◆戦争のことがこころに残る。
- ◆茨城に疎開して友達にいじめられて相談する人がいないのはとても苦しいことだと思う。
- ◆身近に信頼できる人がいることは幸せなことと思う。
- ◆戦争が起きるとたくさんの方がつらい思いをする。戦争が二度と起きないようにしたい。

(2) 男子B

- ◆ガンの話が一番こころに残った。
- ◆肺ものども胃もない。いつ死ぬかわからない状況で何を思って生きていくのか。な

ぜどんなにつらい状況でも、人は生きていくのか考えさせられた。

- ◆考えたけれど簡単に答えがでない。僕なりにこれからの人生の中で考えて行く。

(3) 女子C

- ◆もし自分の家族ががんにかかったら、家族全員で励ましてあげたいと思う。
- ◆東京大空襲のときのいじめの話もここに残った。
- ◆わたしは、人を殺してはいけない、人を傷つけてはいけない、を大事にしたい。

(4) 女子D

- ◆生きるか死ぬかの境目に遭遇するのはつらいなと思う。
- ◆戦争で東京は真っ赤になり、大勢の人が亡くなった。何のために戦争があるのか。一生戦争がなければと思う。
- ◆親も親戚も誰もいないところで、一人で暮らすのは、さみしくて最悪だと思う。私は11歳だけど瀬尾さんは小学生にもなっていないので、もっとさみしいと思う。
- ◆災害のビルの倒れた写真を見て、どのくらいの災害だったかよくわかった。今は幸せということがよくわかった。
- ◆ガンでは、病床で昔の思い出を考えたと聞き、いざというときにもう死ぬのかなと思ったら、昔の楽しかったこと、かなしかったこと、面白かったことの思い出を考えるのかな と思う。
- ◆今の時代は簡単に自殺をしたり、人を殺したりしているけど、私はいのちを大切に生きたい。

(5) 男子E

- ◆戦争時代にアメリカから飛行機が飛んで来て爆弾を落として、日本が燃えた。僕には日本は大切な国である。
- ◆ガンは、とても重い病気であると初めて知った。人はかならずガンになるのは、怖い。
- ◆死ぬか生きるか大ピンチで、生き抜いたのはすごい。僕も見習いたい。

6. 6年生

(1) 女子A

- ◆家族が大切なとても大切な存在であることを改めて感じた。
- ◆家族がいないと食べ物とか住むところがなく、生活ができない。いじめがあっても、助けを呼べないからだ。
- ◆これからは家族をこれまで以上に大切に、友達も大切にする。

(2) 男子B

- ◆地震のときに落ち着いて、自分のいのちは自分で守り、会社のことは後回しでいいと言えるのはすごい。
- ◆一人ではできることは少ないけど2から3人になるとたくさんのことができ、また意見を出し合ってきたのはすごいと思う。

(3) 女子C

- ◆戦争が起きると両親をなくす人や関係のない人まで死んでしまうから戦争が起きてほしくないと思う。

- ◆地震は起きないでほしいと思っても、起きてしまうのが嫌だ。
- ◆私はこれからもいやなことがあるかも知れないけど幸せなこともあると頑張っていきたい。

(4) 女子D

- ◆戦争はいろんな人がなくなり、いじめも多くなり、ごはんや服がなくなり、大変なことばかりだ。
- ◆今すぐに服が買え、ごはんが食べられるのはありがたいと思う。
- ◆困ったときに助けてくれる人がいるのは大切でうれしい。私は恵まれていると思う。
- ◆すべてにおいて、私が楽しく暮らせていることを大事に思う。

(5) 男子E

- ◆ガンがいろいろなところへ転移しているのに助かっているのはすごい。
- ◆地震のときも、会社のことを最後にしたのは良かった。
- ◆疎開のときもいじめを耐えて、小さいのに一人で生きていたのですごい。

以 上